

天文 13

「令和8年の天文イベント」

天文担当 片野田 裕亮

■ 令和8年の天文イベント

令和8年も皆既月食や流星群などのさまざまな天文現象が期待されます。今回は、鹿児島から今年観察することができる、主な天文現象について紹介します。

〈令和8年の天文イベント〉

- | | |
|-------|------------------------------|
| 1/4 | しぶんぎ座流星群が極大（流星群が最も活発に活動すること） |
| 3/2 | レグルス食（しし座の1等星レグルスが月に隠される現象） |
| 3/3 | 皆既月食 |
| 4/23 | こと座流星群が極大 |
| 5/31 | 今年最小の満月 |
| 8/13 | ペルセウス座流星群が極大(好条件) |
| 8/19 | 伝統的七夕 |
| 9/25 | 中秋の名月（満月は27日） |
| 11/15 | しし座流星群が極大 |
| 12/14 | ふたご座流星群が極大(好条件) |
| 12/24 | 今年最大の満月 |

■ 皆既月食

鹿児島県では、3月3日の18時50分頃に部分食が始まり、皆既食は20時4分頃から始まります。食の最大は20時34分頃。皆既食の終わりが21時



皆既月食（2022年）

3分頃、部分食の終わりが22時18分頃となり、観察しやすい時間帯での皆既月食となります。月が欠ける様子や赤銅色に染まる月を観察してみたいかがでしょうか。

■ 2つの流星群が好条件

三大流星群のうち、「ペルセウス座流星群」と「ふたご座流星群」が好条件となります。

ペルセウス座流星群は毎年お盆の頃に活動のピークを迎えます。今年の極大は8月13日の11時頃とされ、明るい時間帯で流星を見ることができません。日本で実際に最も流星が見られるのは13日の夜明け前となり、出現数は、1時間あたり35～40個程度と予想されています。

ふたご座流星群は、毎年クリスマス前に活動のピークを迎えます。今年の極大は、12月14日の23時頃とされており、日付が変わった15日の0時～2時頃には、流星が1時間あたり60個に達すると予想されています。

極大日の前後1週間は、流星を観察するチャンスです。街明かりの少ない安全な場所でリラックスした体勢をとり、空全体を観察してみましょう。

■ 宇宙探査にも注目

2014年に種子島宇宙センターからH-IIAロケット26号機で打ち上げられた小惑星探査機「はやぶさ2」が、7月に小惑星トリフネのフライバイ探査を行う予定です。

また、JAXAが欧州宇宙機関（ESA）と協力して行っている国際水星探査計画で打ち上げた、水星磁気圏探査機「みお（MMO）」が、11月に水星周回軌道へ投入される予定となっています。

令和8年の宇宙探査や宇宙開発にも注目していきましょう。



ふたご座流星群（2022年）